

八王子消化器病院ニュース

おおるり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS

第75号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

—患者様のための医療—

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL: 042-626-5111

www.hachiojishokaki.com

制作 (株)教育広報社



ヒーローズ・ジャーニー ～のび太君と共に～

八王子消化器病院 副院長

齋田 真

いくつの波が押し寄せて来るのか、次はどのくらい高い波なのか、誰にも分からぬ新型コロナ禍を悶々と過ごしている方も多いかと思います。私もその一人ですが、その波間のある時期に、幸運にも次男の演劇発表会を観覧する機会をいただきました。

演目は、人気の児童書「わんぱく団」をモチーフにしたオリジナルのストーリーでした。いつも喧嘩ばかりしている仲良し三人組が世界冒険に出発し、宝を発見するといった内容で、6歳になった我が子はライオンの着ぐるみ姿で、一言二言のセリフが用意されていました。彼の成長を思い返しながら、何とも心温まる時間を過ごしました。

そして、頑張った次男へのご褒美も兼ねて午後には映画鑑賞に出かけました。長男、次男ともに樂しめる「ドラえもん」です。ドラえもんと、のび太君その仲間たちが宇宙冒険に出かけ侵略者と対峙するといった内容でした。が、次男の演劇発表会との共通点に、ふと気が付きました。それは、主人公が仲間と共に冒険し、目的達成のため困難に立ち向かうという物語と、おつちよこちよいで程よい隙がある登場人物像でした。

経言語プログラミング)でも同様の研究がなされ、それを「ヒーローズ・ジャーニー(英雄の冒險)」と提唱しました。

主人公も最初は普通の人

・ミッション(使命・天命)に気づき、旅が始まる

・自分を助けてくれる仲間と出会う

・ミッション達成を阻む敵(悪魔)と出会う

・アメリカの著名な映画監督であるジョー・ルーカスも、その考え方にも大きな影響を受け、大作「スター・ウォーズ」を制作したといわれています。日本には昔話「桃太郎」があり、若者に人気の漫画「ONE PIECE」やテレビゲーム「ドラゴンクエスト」シリーズにも同様の構造が見られます。

このような万人に愛されるストーリーには、人々が求める生き方があります。ヒーローは進むべき道を情熱的に突き進み、傷だらけになりながらも立ち上がり続けます。そのような困難や逆境は、ヒーロー(=主役)にしか現れないこと、それに立ち向かうことが使命・天命であるとヒーロー自身が分かっているからです。そのエネルギーに周りの人々は惹きつけられ、愛されるストーリーが紡がれています。そのような冒険をしているヒーローと仲間たちはキラキラと輝いているはずです。

そのような物語について、アメリカの神話学者ジョーゼフ・キャンベルは、世界各地の神話を研究し、主人公が未知の世界を冒険する物語の構造「英雄の輪廻」を示しました。また、「脳と心の取扱書」と呼ばれる心理学(NLP (Neuro-Linguistic Programming): 神

私たち八王子消化器病院には、どのような物語があるのでしょうか。各職員が医療従事者としての使命を認識し、職務を全うすることを心がける。患者様の声に耳を傾け、それを仲間と共に共有し合う。(それを阻む敵はいませんが) 目指すべき目標を掲げ、それを患者様一人ひとりの治療に還元し、経験を各職員で分かち合う(=ミッション達成)。そして、私自身は:・愛されキャラの「のび太君」として、そのミッションに携わる・・・。

これからも、八王子消化器病院の「ヒーローズ・ジャーニー」にご期待ください。
(追記: 医師である私に、隙はあつても「じくじり」があつてはならないことは、言うまでもありません)

次に、もう1つの共通点ですが、多くの物語には万人に愛される人物が登場します。少し隙があります。そのような、程よい隙が愛嬌があります。そのような、程よい隙があることと好感度の関係について、テキサス大学の心理学者エリオット・アロンソンは「しくじり効果」の実験を行っています。要約すると、完璧な人間よりも少し隙があつて失敗をしてしまった人間のほうに好感が持てたという実験結果でした。頭の先からま先までビシッと決まつた人よりも、少し寝ぐせがあつて、シャツがよれた人のほうに共感・好感を持つたという経験がある方は、少なくないと思います。映画「ドラえもん」の「のび太君」、漫画「ONE PIECE」に登場する「ウソップ」(ご存じない方もいるかもしれません)のように、周りに少し迷惑をかけてしまいそうな、「やらかして」しまいそうな隙のある人物が、ヒーローズ・ジャーニーに花を添えているはずです。

もっと知りたい!
身体 治療
病気 のコト

がん治療を知る❖ 第3回

がん治療と緩和ケア

看護主任
がん化学療法看護認定看護師 植 和香

(緩和ケアについて)

「緩和ケアでは、どのような治療をするのでしょうか?」「どのタイミングで緩和ケアを行つてもらえるのでしょうか?」「この病院でも緩和ケアは、受けられますか?」等、がん治療に関する面談に際し患者様・ご家族から尋ねられることの多いご質問です。また、緩和ケアとは終末期の患者に対するケアであると考え、マニスイメージを抱いている方が多いようになります。

最初に、「緩和ケア」の定義を確認します。WHO(世界保健機構)は「生命を脅かす疾患に伴う問題に直面する患者とその家族に対し、疾患の早期より疼痛や身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題に関して正確に評価し解決することにより、苦痛の予防と軽減を図り、生活の質(Quality of Life: QOL)を向上させるためのアプローチである」としています。この定義をもとに我が国でも2012年度からの第2期がん対策推進基本計画において重点的に取り組むべき課題の1つとして「がんと診断されたときからの緩和ケアの推進」が明記されています。

このように緩和ケアは、終末期における苦痛の緩和のみならず、積極的な治療と並行して苦痛を緩和し、QOLの向上を目的として実施される重要なケアなのです。緩和ケアは、がんに限らず全ての疾患に適応されますが以下では特に、がんによる身体的な痛みに対してどのように治療を行つているのかについてご紹介いたします。

※スピリチュアル・霊的、精神的と訳される生きる意味や価値、人生観等を含む。

(がん疼痛について)

がんと診断された方から「どのような痛みが出るのでしょうか?」と、ご質問を受けることがあります。がんによる痛みには、大きく3種類あるといわれています。①がんによる痛み(がん自体を原因とする浸潤や転移等による痛み)②がん治療による痛み(手術後の痛みや薬物療法・放射線療法の副作用等による痛み)③がんやがん治療とは直接関係のない痛み(変形性脊椎症や関節炎等)がそれです。その中で「①がんによる痛み」を「がん疼痛」といいます。

がん疼痛には、「体動によつて痛みが出るもの」や「局所ではなく何となく鈍く

重い痛みを感じるもの」、「電気が走るようなビリビリした痛み」等があります。これらの痛みの種類や程度に応じて使用する薬剤を選択していきます。痛みが弱い場合は、市販されているような鎮痛薬から使用していきますが、除痛効果を確認しながら薬の内容を変更していく必要があります。

以前の除痛ガイドラインでは、効果の弱い鎮痛薬から使用し、効果が十分でない場合はより強い薬、更に強い薬と階段を登るよう順番に使用していくことが推奨されていました。しかし、現在のガイドラインでは、その時々の痛みの強さに応じて鎮痛薬を選択することが推奨されています。我慢できない痛みに対しても早期に医療用麻薬を導入し、痛みを緩和させることができQOLや生命予後の改善に繋がることが分かつてきました。

日本人の傾向として「薬は沢山飲みたくない」「薬に頼りたくない」「中毒になる」という悪い印象を持つている方が多いようです。そのため「まだ我慢できる痛みだから大丈夫」と鎮痛薬の使用を躊躇する方がおられます。しかし痛みは、食欲がなくなる、眠れない、動けない(活動量が低下する)等、日常生活に大きく影響を与え治療にも支障を来しかねません。

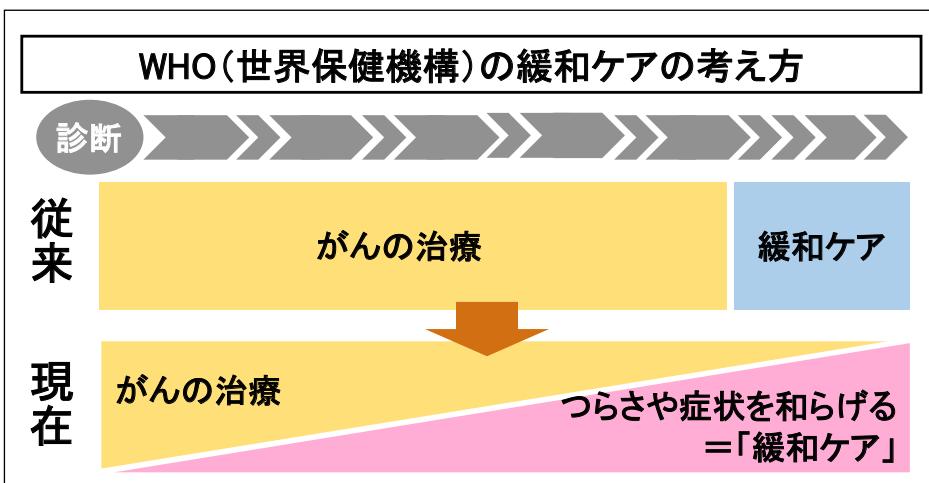


図 WHO(世界保健機構)の緩和ケアの考え方

方は依存症になることはありません。車の運転は出来ない等の制約はあります。が、辛い痛みを抱えながら日常生活を送ることに比べるといかがでしょうか。痛みを我慢せず症状に適した薬剤を使用し、苦痛を緩和することで「がん」という病を抱えながらも貴重な時間を、その人らしく過ごせるよう私達がお手伝いいたします。

嚴しさと優しさと
～鈴木衛先生にいただいた言葉～

昭島市在住

真弓さん



十五年前の二月、私は初めて八王子消化器病院を知り、当時の病院長でいらした鈴木衛先生のご診察を仰いだ。S字結腸癌であることを知り、手術を受けた以来、今日に至るまで大過なく過ごせていることに心から感謝を申し上げたい。就中鈴木先生には病との向き合い方を、厳しさと深い優しさを以て教えていただいた。少しでも先生のお人柄を皆様にお伝えするべく、鈴木先生が私に遺してくださいました四つの言葉をご紹介したい。

んでいた。秋頃には周囲から瘦せた・やつれたと指摘されるようになつたが、『自分は病気にならないだろう』と慢心していく。年明けに下血症状が出て初めに体の異常を自覚し、職場の先輩から消化器病院を紹介され、鈴木先生にお目にかかるのである。初診の際、先生は常に私の目を見て症状を聞き、検査の手配をしてくださつた。里目がちの大きな目に見つめられて、私は子供のような恐怖の念を抱いたことを記憶している。

能性が高くなります。一つは八ミリ、もう一つは一センチです。二センチの方の影がギザギザしているのがわかりますか。ギザギザがあるポリープは癌です。」穏やかな告知によつて、私は自分が癌を発症していることを静かに受け入れることができた。

その後、手術の準備が進むに従つて手術への不安・恐怖と緊張が高まり、CT検査の際にとうとう頭痛と恶心に襲われ、検査を延期していただく失態を演じてしまつた。その翌日の回診の際、鈴木先生は「全てはこれから始まるんだよ。こんな所で足踏みしていて大丈夫なのか?」と射貫くような目で仰つた。その言葉のお陰で、『もう逃げ道はない』と覚悟を決めることができた。消化器病院の素晴らしいところは、"チーム医療の連携の強さ"であることも実

わせて「思つたより癌は小さく
リンパ腺への浸潤もほとんど
られません。最高の結果です
良かったですね」と声を掛けて
くださった。私を見つめる目は
射貫くような目ではなかつた
くしゃつと笑つた「へ」の字型
の目であつた。

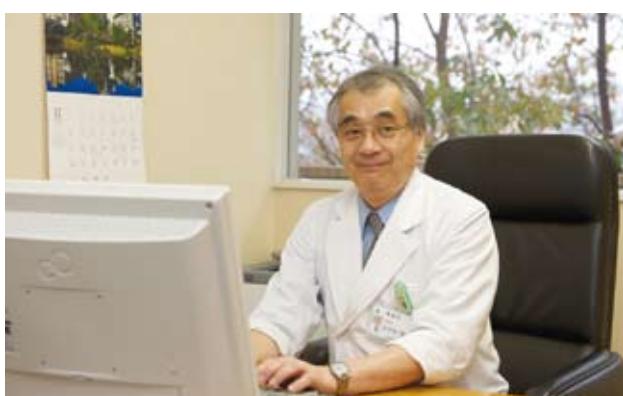
多くの人にとつて、相手に優
しい笑顔を向けることは容易に
ことだ。しかし、相手を思つて
敢えて厳しい態度をとることは
とても難しい。相手の誤解や反
発を受け止める度量があつてこ
そできることがあるからだ。鈴
木先生には治療以上に大切なこ
とを教えていただいた。職場対
帰してからは、鈴木先生のよき
な教師になりたい。言葉を濁さ
ず、生徒の迷いや克服点をまことに
前へ進み始めた生徒には優しく
背中を押せるような教師になら

沢山いるんです。仕事を口実に病気と向き合わない人とつきあう時間は私にはない。」ときつぱり仰つた。私の甘さを容赦なく指摘してくださったこの言葉を忘れる事はないだろう。バリウム検査の結果を伝える言葉は逆に坦々とした口調だつた。「塊の影が二つ見えますか。これはポリープです。一センチメートルを超えると癌である可

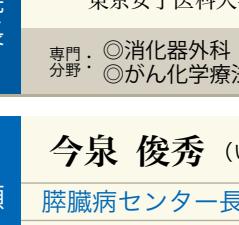
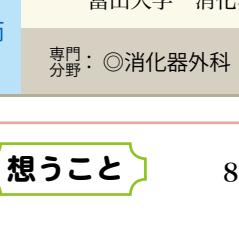
感した。CT検査以降、ほぼ日回診の先生や看護師の方々から励ましの言葉をいただき続けたのだ。"もう手術を頑張るしかない、引っ込みどつかない"と、良い意味で追いつかれていた。幸いにも術後の経過は順調で、明日退院する。この日は、鈴木先生は回診時間外に病室に来てくださった。そして、私の顔の高さに目線をそ

たい。" という一心で努めて来た。卒業生から " 厳しかつたけれどあの一言で目が覚めた " " まつすぐ言つてくれてありがとう " と声を掛けられる度に、退院前日に見た鈴木先生の笑顔を思い出す。そして先生の足下にも及ばない未熟さを実感し、更なる努力を誓つ日々を送つてゐる。

先日、鈴木先生が私よりはるかに重篤な病との闘いの後逝去



ドクタープロフィール 2022

理事長	原田 信比古 (はらだ のぶひこ) 東京女子医科大学 消化器外科元派遣准教授 専門: ◎消化器外科 ◎肝・胆・脾外科 	病院長	小池 伸定 (こいけ のぶさだ) 東京女子医科大学 消化器外科非常勤講師 専門: ◎消化器外科 
副院長	齋田 真 (さいだ しん) 東京女子医科大学 消化器外科元助教 専門: ◎消化器外科 ◎腹腔鏡外科 分野: ◎がん化学療法 	顧問	林 恒男 (はやし つねお) 東京女子医科大学 消化器外科元講師 専門: ◎消化器外科 ◎食道外科 分野: ◎消化器内視鏡検査・治療 
顧問	今泉 俊秀 (いまいすみ としひで) 膵臓病センター長 東海大学 消化器外科元教授／東海大学医学部付属東京病院 客員教授／東京女子医科大学 消化器外科元助教授 専門: ◎消化器外科 ◎肝・胆・脾外科 	消化器内科医長	森下 慶一 (もりした けいいち) 東京女子医科大学 消化器内科非常勤講師 専門: ◎消化器内科 分野: ◎内視鏡の診断処置 
消化器外科医長	尾崎 雄飛 (おざき ゆうひ) 東北大学医学部 第二外科元医員 専門: ◎消化器外科 	医師	大島 奈々 (おおしま なな) 東京女子医科大学 消化器外科元助教 専門: ◎消化器外科 
医師	原 敏文 (はら としふみ) 東京女子医科大学 消化器内科元医員 専門: ◎消化器内科 	医師	坂本 承 (さかもと しょう) 慶應義塾大学 一般・消化器外科元医員 専門: ◎消化器外科 
医師	小林 瞳季 (こばやし むつき) 東京女子医科大学 消化器内科助教 専門: ◎消化器内科 	医師	渋谷 豪 (しぶや ごう) 東京女子医科大学 消化器・一般外科助教 専門: ◎消化器外科 
医師	土田 浩喜 (つちだ ひろよし) 富山大学 消化器・腫瘍・総合外科元医員 専門: ◎消化器外科 		● 化学療法外来 医師: 川上 和之 東京女子医科大学 化学療法・緩和ケア科元准教授 ● 膠原病・リウマチ・痛風外来 医師: 高木 香恵 東京女子医科大学附属足立医療センター 内科講師 ● 糖尿病外来 医師: 大野 敦 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科兼任准教授 医師: 松下 隆哉 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科講師

想うこと

8月や 6日9日 15日
詠み人知らず



掲句は、「はて? 何のことやら」と思われる一方で、「ははーん」と思い当たる人もおられるかと思います。そうです、ここでの6日は広島平和記念日、9日は長崎原爆の日、そして15日は終戦記念日です。あの第二次世界大戦が終わり、早や3四半世紀が経ち、この間、私たちは安穏無事な時代を謳歌

し、平和についての意識も希薄になってしまったようです。しかし、今回は遠いヨーロッパとはいえ、核を持つ軍事大国による一方的かつ正義も大義もない侵略が勃発したことで、太平の夢が破られ、改めて現在の日本が置かれている厳しい現実を思い知らされました。刻々と送られてくる悲惨な映像を見るにつけ、一日も早い終戦を願うと共に、改めて平和の大切さを痛感しています。

理事 久野久夫